

# 武蔵野ホールディングス／日本べんとう振興協会

コンビニエンスストア(CVS)向け弁当・おにぎり・調理パン市場は、全国5万0108店で1日約1600万食、年間58億食を超え、品揃えの多様化も進み生活インフラとして再認識が加速している。武蔵野ホールディングス、会長およびCVSに弁当・惣菜などを納入するメーカー団体の公益社団法人日本べんとう振興協会会長の安田定明氏は、企業としてはもとより公人として、業界の社会的信頼を高め、国民の健康の増進とコメや野菜の消費拡大、雇用拡大など内需の促進に注力していく。

## 安田 定明 会長



総務省の11年家計調査ではパンの年間消費支出が3万7800円、コメは3万7000円とパンの支出がコメを上回った。業界からは消費者の低価格志向が続く中で、米飯商品の割高感がぬぐえないという声が続々出てくる。また、パン類に比べてご飯類の消費期限は短いという

### ワンポイント

売上のロス対策の問題もある。こうした中で売上げを伸ばしているのが、東日本大震災で注目された消費期限が4〜5日のチルド弁当である。惣菜もチルド包装惣菜の売れ行きが堅調で、今後は「作りたて」と「日持ち」の両極の追求が商品開発のキーワードになっていく。

## 生活インフラの役割

昨年5月には埼玉・嵐山のカムス第2工場を増築して1日110tの小麦粉を使用する国内最大級となるパン工場を竣工、11月には関西圏の強化を目的に武蔵野京都工場を竣工し、うどんやそばなど調理麺や惣菜、そして武蔵野としては初めてとなるクラファンなどチルド商品の製造が始まった。来年も本社および埼玉工場、朝霞工場を集約した本社工場の新築を予定しており、主婦や高齢者などCVSの新需要層の増加に対応して生産能力と品質を高めて応え

ていく。カムス第2工場の増築では、大量生産では難しいとされている職人技を競う町のパン屋のような品質を出すことにあえて挑戦し、「目指すは、町のパン屋さん、品質」

# 高質と安定供給を実現

を提供できるか、メーカーの力が試される。

武蔵野グループは全体で22の食品工場を持ち、セブンイレブンの約9500店舗に弁当・おにぎり・サンドイッチなど1日約200

万食を提供する。CVSの店舗拡大で一番心配されるのは、売れ筋商品の弁当・おにぎり・惣菜・調理パン・調理麺など目配商品の供給力である。原料インフレ・商品アップレの厳しい

環境下、私どもが10%を超える成長をしているのはCVSの成長が大きな力になっている。今後とも供給体制を強化して一心同体で変化に対応して取り組んでいこうと考えている。

協会では人材・米価問題対処

一方で、私が代表理事会長を務めている公益社団法人日本べんとう

総務省の11年家計調査ではパンの年間消費支出がコメを上回るという初の逆転現象が起きており、早い段階でのコメの正常価格への是正を望んでいる。

CVSの国内店舗数は上限説5万店といわれており、その店舗数に達した。これからは店舗数の拡大ではなく、商品力の競争になる。おいしく安心できる商品が絶対に必要。われわれはそういうニーズに応えた商品作りを深耕して、生活インフラの責務を果たしていかなければいけない。

2013年のCVSの弁当・おにぎり・調理パンなど目配商品はさらに消費者の厳しい選択にさらされ、いかに差別化できる「商品」

万食を提供する。CVSの店舗拡大で一番心配されるのは、売れ筋商品の弁当・おにぎり・惣菜・調理パン・調理麺など目配商品の供給力である。原料インフレ・商品アップレの厳しい環境下、私どもが10%を超える成長をしているのはCVSの成長が大きな力になっている。今後とも供給体制を強化して一心同体で変化に対応して取り組んでいこうと考えている。

協会では人材・米価問題対処

一方で、私が代表理事会長を務めている公益社団法人日本べんとう

総務省の11年家計調査ではパンの年間消費支出がコメを上回るという初の逆転現象が起きており、早い段階でのコメの正常価格への是正を望んでいる。

(文責・福島厚子)